

未六月十七日開業

鳥渡目先の放駒濡髪がねさの以遣物迄



菅橋下
甚師地内入口角
蛇の目毒時司

蛇の目鮎開業告條

新富街小陣を取長年蛇の目の名を揚し以得志様の援兵
 あり。猪岡得し方幸先能さ小最一ツととて公館上かんと突止とるそ
 鏡屋町波天全の新道へ城郭程も至らぬと鳥渡塗家の一構
 ナト陣所もあてこしらぬが所小意元小普請中政の金の
 複し薩摩吹込む風小遠るを音色涼し風をんて取解け
 負を遣ひ毒時と料理の両刀小必死と驚う才骨かれが名小負
 土地も十重廿重老舗と叫れ大敵小及ぬ軍とたど作大敵と
 見ておれど小朝鮮道由糸込加ぬの紋小因も有が一番腕を
 磨き上り料理の同致致せ其當目か花を敷以詔之の
 以加勢有様主人と共に願ありの劇場作者の兵卒也
 竹紫其水記

御毒時 御料理

出前

京橋区鏡町天全を
蛇の目毒時

仕出し料理口條

新富街の顔見世芝居は同場と諸共小新築あせし
 仕出しの同店先狂言小准へて申さむ 伏野の行世が餅者
 馬士が半馴し口取小心を込め一庖下もあてをよけれど
 石切梶原者も送艦の甚浪小川岸の帰りを松
 右あつ奈落へ困ひの水船あて生洲料理の河注文小
 鳥渡目先の放駒濡髪がねさの以遣物迄